

第2回しただの郷未来の学校設置準備委員会 会議録

- 1 日 時 令和7年11月26日(水)午後6時から午後8時35分まで
- 2 場 所 下田中学校 食堂
- 3 出席者 山田宏高委員、前田政志委員、刈屋剛委員、大竹啓五委員、佐藤アキ委員、多田英和委員、西川聡委員、川口裕委員、山田泰輔委員、神田晃委員、長谷川光栄委員、石月貴大委員、清水昭委員、高橋多美子委員、坂井大委員、皆木美知子委員、佐藤久恵委員、増井由春委員、佐藤貴紀委員、佐藤裕之委員、坂井浩行委員、櫻澤健委員、坂井友也委員、坂井勝委員、大井英揮委員、込山雄一郎委員、刈屋優樹委員、長谷川恵梨委員、鈴木航委員、山田守委員、川村貴則委員、詰田真央委員、佐々木弘一委員、山下大樹委員、高橋美咲委員、若林初代委員、坂井真理子委員、佐藤智広委員、安井朋委員、齋藤貴子委員、下條悟委員、池田岳康委員、谷内田誠委員、宮嶋利光委員、亀倉伸嘉委員、伊藤正史委員、金子裕彦委員、伊藤勝広委員、佐藤康子委員、三村陽子委員、小出晃大委員、相澤一徳委員、中村正之委員
(欠席委員 川沼正憲委員、刈屋優委員、渡辺歩委員)
- 4 職員等 高橋教育長、平岡教育部長、野水教育総務課長、相田学校教育課長、樋口教育センター長、佐藤教育総務課課長補佐、外山学校教育課統括指導主事、畑教育センター統括指導主事、井上教育総務課庶務係長、小柳教育総務課学事係長、坂上教育総務課施設管理係長、富樫教育総務課庶務係主任
- 5 傍聴人 4 人
- 6 内 容
 - (1) 報告 第1回しただの郷未来の学校設置準備委員会の会議録について
 - (2) 次回協議事項に関する情報提供
 - (3) 議事 統合校として活用する小学校校舎について
 - (4) その他 次回のしただの郷未来の学校設置準備委員会の日程について
- 7 審議の経過及び結果
 - (1) 報告 第1回しただの郷未来の学校設置準備委員会の会議録について
(佐藤教育総務課課長補佐)
第1回しただの郷未来の学校設置準備委員会の会議録については事前送付させ

ていただいたことをもって報告に替えさせていただきます。

(2) 次回協議事項に関する情報提供

(平岡教育部長)

三条市では小中一貫教育を推進している中、懇談会のほぼ全ての会場で、下田中学校校舎に小学校を統合すべきという御意見をいただきました。

令和10年4月に下田中学校校舎へ統合小学校の児童全員を受け入れる場合、教室数などが不足するため、下田中学校校舎を増築する必要があります。しかし、少子化の見込みを捉え、児童数の減少が続く見込みの中、増築してもすぐに空き教室が増えてしまいます。そこで、令和10年4月にはひとまず5つの小学校校舎のいずれかを活用することが極めて適切ではないかと考えているところです。1つの考え方ですが、まずは令和10年4月にいずれかの小学校校舎を活用して統合し、その後、令和15年度以降に下田中学校校舎が統合小学校の児童を受け入れることが出来る段階で統合小学校が下田中学校校舎に移るという考え方です。この場合、2段階の小中一貫教育の形態を持つことになり、先々下田中学校校舎に統合小学校の児童が移るとした際の小中一貫教育の形態が令和10年4月の小学校統合時の小中一貫教育の形態をも左右することが想定されます。このことから、先々中学校に移行するとした場合の小中一貫教育の形態を合わせて考えることが必要です。

次回、小中一貫教育の形態を検討するにあたり、まずは委員の皆さんに事前に理解を深めていただきたく、本日、小中一貫教育の分野を研究している大学院教授や、市内で小中一貫教育の校舎一体型と義務教育学校、それぞれの形態で小中一貫教育を実践している学園長からお話をいただくものです。

では、最初に小中一貫教育の形態について、現況等の概要を事務局から説明をいたします。

～樋口教育センター長 説明

(佐藤智広委員)

小中一貫教育を実施して10年経過しましたが、成果はありましたか。

(樋口教育センター長)

毎年、年度末に小中一貫教育点検アンケートを行っています。そのアンケートの「中学校進学への不安が無くなったか」の回答で9割近い子どもたちが肯定的な回答をしており、中1ギャップについて一定の成果があったと捉えています。なお、校舎一体型と校舎分離型でこの結果に大差がなく、どちらの校舎形態をとっても成

果があったと考えています。

(佐藤智広委員)

校舎一体型にした前後で不登校の児童数に違いはありましたか。

(相田学校教育課長)

校舎一体型にした後の不登校の児童数は、校舎一体型にする前に比べて減りました。ただし、新型コロナウイルス感染症の時期に全国的に不登校の児童数が大きく増えており、三条市も同様に増えています。

(佐藤教育総務課課長補佐)

次に、小中一貫教育の進展と地域の関係について新潟大学大学院の雲尾教授にお話いただきます。

～新潟大学大学院 雲尾教授 説明

(坂井浩行委員)

地域との交流は統合後も統合前の学校校舎を残して、そこで活動しているのでしょうか。それとも地域内の別の場所で活動しているのでしょうか。

(新潟大学大学院雲尾教授)

地域のお祭り等に参加するための学校校舎は必ずしも必要ありません。ただし、例えば統合前の体育館のみ残っていて、そこを活用する場合があります。

(坂井浩行委員)

地域との交流は、統合後のどの教科に取り入れるのですか。

(新潟大学大学院雲尾教授)

一番大きいのは総合学習の部分です。A地域で3年生、B地域で4年生など義務教育9年間で地域を回れる仕組みです。

(佐藤教育総務課課長補佐)

次に、施設一体型で小中一貫教育を行っている嵐南学園学園長と義務教育学校で小中一貫教育を行っている大崎学園副学園長にお話しいただきます。

～嵐南学園 山宮学園長 及び 大崎学園 倉田副学園長 説明

(山田泰輔委員)

3人ともメリットの話だったので、議論をするためにデメリットも示してほしいです。それとも、議論をしないで検討事項を決定していく進行ですか。

(平岡教育部長)

言うまでもなく、一定の議論を経て、方針を決めていくべきものと考えます。小中一貫教育の校舎形態については、校名、校歌、校章、校旗等に影響してくるので、

今回はそもそも小中一貫教育とは何か、その校舎の形態により何が変わってくるのかについて説明させていただき、次回、御議論いただくものです。

(山田泰輔委員)

デメリットを知る事で判断できることもあるので、小中一貫教育の各形態についてデメリットも示してほしいです。

(平岡教育部長)

御意見として頂戴いたします。

(坂井浩行委員)

義務教育学校の大崎学園では、先生の任期は最長どのくらいですか。

(大崎学園倉田副学園長)

任期は、大崎学園に限らず県内どの学校も原則5年までです。

大崎学園では、児童が前期課程を修了しても、後期課程で前期課程の教員がいることもあります。7年生になっても校内に以前の教員がいることは児童にとって心強いと思います。

(3) 議事 統合校として活用する小学校校舎について

(山田委員長)

統合校として活用する小学校校舎については、第1回準備委員会で説明し、各学校運営協議会においてお考えいただくこととしておりました。まずは、各学校運営協議会でお考えいただいた結果について発言をお願いします。発言は学番順とし、長沢小学校運営協議会からお願いします。

(池田委員)

長沢小学校運営協議会は、5つの理由から長沢小学校校舎を活用することが望ましいと考えます。①ハザードマップを見ると長沢小学校校舎は災害に強い立地条件であること。②下田中学校との距離が1.1kmと近く、小中一貫教育を進める上で乗り入れ授業や小中連携で行き来がしやすいこと。③人口流動の観点で近隣に下田庁舎や主な店舗などがあり下田地域の中心部であること、また、スクールバスの輸送も容易であること。④裏に山があるなど地域資源がありダイナミックな教育活動が展開できること。⑤平成6年度の駒込校との統合時は、児童数が231人で普通教室数は、1、2、4年生は1学級、3、5、6年生は2学級、特別支援学級は1学級でした。令和10年度の普通教室数は平成6年度の時とほぼ同じ見込みであり、受入れ能力的に問題ないと判断したこと。また、当時勤務していた職員に聞いたとこ

ろ、トイレや手洗いが混むことはなかったとのこと。ただし、駐車場の不足、プールの老朽化、令和 10 年度に想定される特別支援の学級数 5 学級に対応できるかは懸念事項です。

(山田委員長)

次に、笹岡小学校運営協議会の意見をお願いします。

(坂井大委員)

笹岡小学校運営協議会は、1 校に絞れなかったものの長沢小学校校舎を活用する意見が多く出ていました。例えば、飯田小学校校舎は裏に山があり水害等の危険性を考慮すると長沢小学校の立地が良いという意見がありました。ただし、長沢小学校のプールの老朽化は懸念事項です。今年は下田中学校のプールも老朽化により使えないことがありました。下田中学校のプールと併せて新設することも考えられるのではないのでしょうか。

(山田委員長)

次に、大浦小学校運営協議会の意見をお願いします。

(伊藤正史委員)

大浦小学校運営協議会は、立地条件、校舎のスペック、グラウンドの広さを考慮し長沢小学校校舎を活用することが妥当という意見が多くありました。例えば、下田地域は冬期間雪道となる中、スクールバスの運行を考えると中間地点に位置する長沢小学校校舎が良いという意見などでした。また、保護者の意見を聴いてほしいという意見があり、現在、大浦小学校運営協議会で保護者アンケートを行っています。今のところ、長沢小学校校舎を活用する意見が多いものの、少数ながら飯田小学校校舎を活用する意見もあります。一方で下田中学校校舎を活用する根強い意見もあり、今後どのようにまとめていくのかが課題です。

(山田委員長)

次に、森町小学校運営協議会の意見をお願いします。

(坂井浩行委員)

教育委員会から自治会に周知された「より良い教育環境のために」というたよりの中で、令和 10 年 4 月の統合時期の決定を「準備委員会で反対意見はなく決定された」と記載があり、森町小学校運営協議会では、審議もなく出来レースの様に決まったのかという質問がありました。たよりにほもっと具体的な説明を記載いただきたいかと思うます。

活用する校舎については長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の 2 校に絞られまし

た。しかし、そもそも小学校を統合することに反対する意見や、令和10年度に小学校を統合して令和15年度以降に下田中学校校舎に移動となると、その5年間だけに改修費を掛けることとなります。それよりも最初から下田中学校校舎を活用した方が良いという意見もありました。その他、駐車場の確保をしてほしい、校舎の耐震性、教室数、空調設備に各校で差がない中でもより良い環境の校舎を活用してほしい、保護者アンケートを行ってほしい、どんな学校にしたいか決めてから、そうするにはどのくらいの期間が掛かるかで統合時期を決めてほしいという意見がありました。

(山田委員長)

次に、飯田小学校運営協議会の意見をお願いします。

(坂井勝委員)

飯田小学校運営協議会は、次の理由により飯田小学校校舎を活用したいという意見でした。理由は、飯田小学校開校時の児童数は200人以上であり、校舎の受入れに問題がないこと、教務室からグラウンドなどが見渡せること、校舎やプールが比較的新しいこと、校地内の車の動きがスムーズなこと、ウエルネスしたなど校地外に駐車場を貸りることができる場所があること、保育所や、市営住宅が近くにあること、神社や資料館等が近くにあり教育活動で使えること、周辺道路が広いこと、多目的スペースで子どもが遊べることなどです。

ただし、懸念事項として、統合時の普通教室数の不足を解消するために多目的スペースが改修候補に入っており、子どもたちが活動できるスペースが減ること、島川原、南中に歩道がなく、冬の徒歩通学者が危険なことがあります。

その他の意見として、学区内に保育所、小学校、中学校を1つに集める必要があるのか、1つに集めることでそれ以外の地域が衰退するので、平等に活性化するようにしてはどうかという意見がありました。

(山田委員長)

最後に、ただの郷学園運営協議会及び下田中学校運営協議会の意見です。ただの郷学園運営協議会及び下田中学校運営協議会では、地域に小学校がなくなることが心配であること、小学校の統合で児童数が増加しトイレの数が不足する等ハード面が心配であること、準備委員会において原案が無いため、物事を決めるのは大変であること、出来レースではないものの、状況を見ると疑わしい面があることなどの意見がありました。また、統合時期は何の反対もなく決まったのかという疑問や下田中学校校舎への統合は可能性が無いのかという疑問がありました。統合時期

と下田中学校校舎への統合について、教育委員会はもう一度説明できますか。

(平岡教育部長)

統合時期については、何か特定の時点にこだわって示したものではありません。令和10年4月という趣旨としては、少子化のスピードを考えた時に、1日でも早く子どもたちに適切な学習集団を提供したいこと。これを取組として進めていく時に、最短で可能な時期が令和10年4月であると見込んだものです。懇談会でも繰り返し説明し、御理解いただいたと感じておりますし、改めて準備委員会で説明した中でも大きな反対意見はいただかなかったことから、御理解いただいたものと捉えております。

下田中学校校舎への統合については、令和10年4月に統合小学校の児童全員を下田中学校校舎に受け入れる場合、教室数などで不足が生じるため下田中学校校舎をそのまま使うことはできません。増築するとしても相当な建設費を要するものと思われます。少子化の見込みを捉え、統合当初以後も児童数の減少が続く見込みの中、増築してもすぐに空き教室が増えてしまいます。それならば5つの小学校校舎のいずれかを活用することが極めて適切であると考えます。

「ありき」ではないかと言う点については、原案をお示しして異議のありなしを示す手法もありますが、学校が地域コミュニティの核であり地域にとって大切な施設であるという前提の中、あえて教育委員会としては統合の時期以外は原案を示さず協議いただいているものです。

また、統合時期については、おたよりで一文に簡略化した書き方となってしまったことはお詫びいたします。今後は、表し方について留意したいと思います。なお、準備委員会の概要はホームページでも公開しているので御確認ください。

(坂井浩行委員)

インターネットで丁寧に広報しても、保護者は見ていません。紙面等ですぐ見れる状況にしてほしいです。

(佐藤教育総務課課長補佐)

本日欠席の川沼副委員長から事前にお預かりした御意見をお伝えします。「様々な考え方や想いの中から、それぞれの提案、説明があるかと思いますが、お互いの考えを理解することが大事かと思えます。最後は、これ、と決めたら、下田地区で一致団結していくことが大事だと思えます。」との御意見をいただきました。

(山田泰輔委員)

飯田小学校校舎の裏にある「山」ですが、山ではなく五十嵐神社を守っている

林です。また、長沢小学校校舎は近くに住宅街があり交通量がありますが、飯田小学校校舎の近くに住宅街はなく、マラソン大会も安心して実施できると考えます。

令和 15 年度以降に下田中学校校舎に移動するのならば、令和 10 年度に改修費用を掛けるのは疑問です。飯田小学校校舎と長沢小学校校舎の両方を活用しても良いのではないのでしょうか。その時の校歌は下田中学校のものを使ったり、飯田小学校と長沢小学校で同じ校歌を使ったりという方法もあります。

(平岡教育部長)

今の御意見は、小学校校舎をどこにするのかよりも、次回の小中一貫教育の校舎形態についてにつながるものと思います。

(山田泰輔委員)

小学校の校舎を 2 つ使えば改修費用が掛からないのではないかという意見です。

(坂井浩行委員)

保護者アンケートを行ってほしいという意見があります。長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の 2 校に絞られた中で、今までの進行状況を示して保護者にアンケートを行ってもらえませんか。

(平岡教育部長)

アンケートを行えば一定の数字として出るものの、これはあくまでも匿名の責任のない数値であります。それよりも保護者、地域、学校それぞれの立場を代表して集まっている準備委員会の皆さんにより議論を尽くし決めていくことが大事ではないかと考えています。

(坂井浩行委員)

アンケートは、資料として使用するものであり、アンケート結果で決定をしたものではありません。聞き方にもよると思いますがアンケートを行ってもらえますか。

(数人の拍手あり)

(山田委員長)

委員の気持ちもわかりますが、アンケートを行って数字が出ると、どうしても数字に引っ張られて多数決になりがちです。この場で議論を尽くして結論を出していけたらと思います。

(平岡教育部長)

先ほど、保護者はインターネットを見ないとの御意見もいただきましたが、ホームページでも常に意見を募集しており、既にかかなりの数の意見をいただいているところです。アンケートは良い悪いは別として特定の数字として出てしまう中、準備委員会の議論もどうしてもそれに引っ張られる懸念もあります。少し考えさせていただきたいと思います。

(佐藤智広委員)

改修をして多目的スペースが無くなることに非常に懸念があります。適正規模を考えると統合した方が良いと思いますが、複式学級を解消する目的なら小学校が2校あっても良いのではないのでしょうか。

(平岡教育部長)

令和10年4月の児童数を想定すると1、2、3年生は1クラスと想定され、4、5、6年生は同時点では2クラスであるもののすぐに1クラスになる見込みであり、児童数の見込みを考えると使用する校舎は1校としていくべきと考えています。

(佐藤智広委員)

各学校の先生方に、今の多目的スペースの使い方や考えを教えてください。

(長沢小学校 池田委員)

長沢小学校校舎を統合小学校の校舎とした時に、玄関前のプレイルームを教室として活用するとして、プレイルームは移動できるしきりがあります。いずれ空き教室が生じることを考えると、プレイルームは人数の変化に対応して使用できると考えます。

(笹岡小学校 宮嶋委員)

多目的スペースは必要だと考えます。活用場面は多く、ないよりはあった方が良いでしょう。

(大浦小学校 伊藤委員)

教室以外で子どもたちが集う場所は必要だと考えます。

(森町小学校 伊藤委員)

森町小学校は多目的教室と多目的スペースがありますが、多目的スペースは有効活用しています。玄関前の多目的スペースは校外活動の前に集う場、3階の多目的スペースは歌の練習などで活用しており無くなると困ります。

(飯田小学校 三村委員)

飯田小学校に多目的スペースは2か所あります。玄関前のスペースは校外活動の

前に集ったり、災害時などに児童を保護者に引き渡す場所にしたり、水泳学習前の体操で活用したりしています。3階の多目的スペースも縦割り班活動時に活用しています。また、暑さで外で遊べない時などにも使え、多目的スペースは必要と考えます。

(坂井勝委員)

資料にあるスケジュールでは、統合校として活用する小学校校舎は今回で決定するとありますが、この進め方では次回の12月でも決まらない可能性があります。進行を考えた方が良くと思います。

(山田委員長)

各学校運営協議会の意見を聴くと、長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の2校に意見が集中していました。この2校を視察し、次回の準備委員会で検討してはどうでしょうか。事務局は2校の視察について実施できそうですか。

(野水教育総務課長)

長沢小学校校舎と飯田小学校校舎の2校の視察は可能です。日程調整をして実施いたします。

(4) その他

次回のしただの郷未来の学校設置準備委員会の日程について

野水教育総務課長から提案があり、次のとおり決定

〔日時〕 令和7年12月25日(木) 午後6時から

また、視察については早急に日程を調整してお知らせする。